システム設定マニュアル
Approach DAM
メールDMサーバーセットアップマニュアル

目次

メールDMサーバーの要件について 3
メールDMサーバーのインストール 5
インストール後の設定 15
メールDMサーバーのアンインストール 21
メールDMサーバーFAQ 23

メールDMサーバーの要件について

▶ 動作環境

項目	スペック
CPU	2コア/2.0GHz以上
メモリ	8GB以上
OS	サーバーOS Windows Server 2022, 2019 クライアントOS OS Windows 11、10 ※メールDMサーバーはデスクトップ用途であるクライアントOSでも動作しますが、保守性・堅牢性の観点から、メールDMサーバーを外部に公開してメール取込を行う場合はサーバーOSをご用意ください。

- 外部送信できるインターネットメールアカウントが必要となります。
- メールDMサーバーが、インターネットメールサーバーに常時接続されていることが前提です。
- ネットワーク構成によっては一部のポート公開または固定グローバルIPアドレスが必要となる場合があります。
- メールDMサーバーをNIVMS製品がインストールされているサーバーにインストールすることはできません。

▶ 製品バージョン要件

メールDMを利用可能な製品については、以下の通りです。

製品名
Approach DAM **本書における製品名の呼称について** 本書では『Approach DAM』という呼称で説明しています。弊社製品の『Sales Force Assistant』シリーズと『Approach DAM』を一緒に導入されている場合、システム設定などの一部のタブメニューの製品名表記が異なる場合がありますが該当箇所は適宜お読み替えください。

※上記以外の製品は利用対象外となります。

※Approach DAMの前身である「顧客創造Approach」をご利用時のメールDMサーバーとは互換性はありません。そのような環境では最初に旧バージョンのメールDMサーバーを完全にアンインストールする必要があります。メールDMサーバーのアンインストール方法については、「メールDMサーバーのアンインストール」を参照ください。

メールDMサーバーのインストール

以下では、メールDMをインストールする手順をご説明いたします。メールDMはWindowsアプリケーションとして作成されているので、動作環境にあるWindows OSの各エディションがインストールされているマシンで、ネットワークに正常に接続可能な環境であれば、インストールが可能です。

⚠ 注意

- WEBサーバーとしてApache2.Xを同時にインストールします。
  IIS等のWebサーバー製品が既にインストールされている場合は、その関連項目も含めて必ず終了させてからインストールを始めてください。
- インストールの実施は、必ずAdministratorの権限をもつユーザーで実行してください。クライアントOSの場合はAdministratorユーザーで実行してください。ただし、OSのバージョンによってはAdministratorユーザーが無効になっているため有効にする必要があります。詳細は各OSのマニュアルを参照ください。
- WindowsのユーザーアクセスAccess制御（UAC）が有効になっているとメールDMサーバーが正しく起動しないのでUACは無効にしてください。詳細は各OSのマニュアルを参照ください。

▶ インストール開始（メディアから実施）

> ⚠ 注意
>
> - クラウドサービスをご利用のユーザー様は、ファイルのダウンロードからのインストール作業となります。詳しくは、次項「インストール開始（ダウンロードからの実施）」をご参照ください。

メールDMをインストールするにあたり、インストールファイルのダウンロードからインストール完了までの手順を記載しております。記載内容をよくご確認の上、作業を実施してください。

1. セットアップの実施
   製品CD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、CD-ROM内の「MailDMServer-setup.exe」をダブルクリックして下さい。メールDMのセットアップが開始します。



2. 使用許諾契約への同意

次に仕様許諾契約への同意を求める画面が表示されます。ソフトウェア契約書をよくお読みの上同意いただける場合は、「使用許諾契約の全条項に同意します(A)」を選択し、「次へ」を押してください。（同意いただけない場合は、インストールできません。）



3. インストール先の選択

次に、メールDMのインストール先を選択する画面が表示されます。インストール先フォルダを選択し、「次へ」を押してください。（通常はデフォルトのままで結構です。）

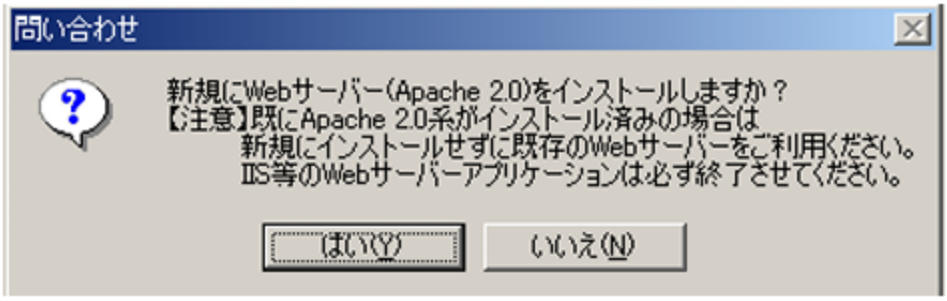


4. WEBサーバーインストール確認

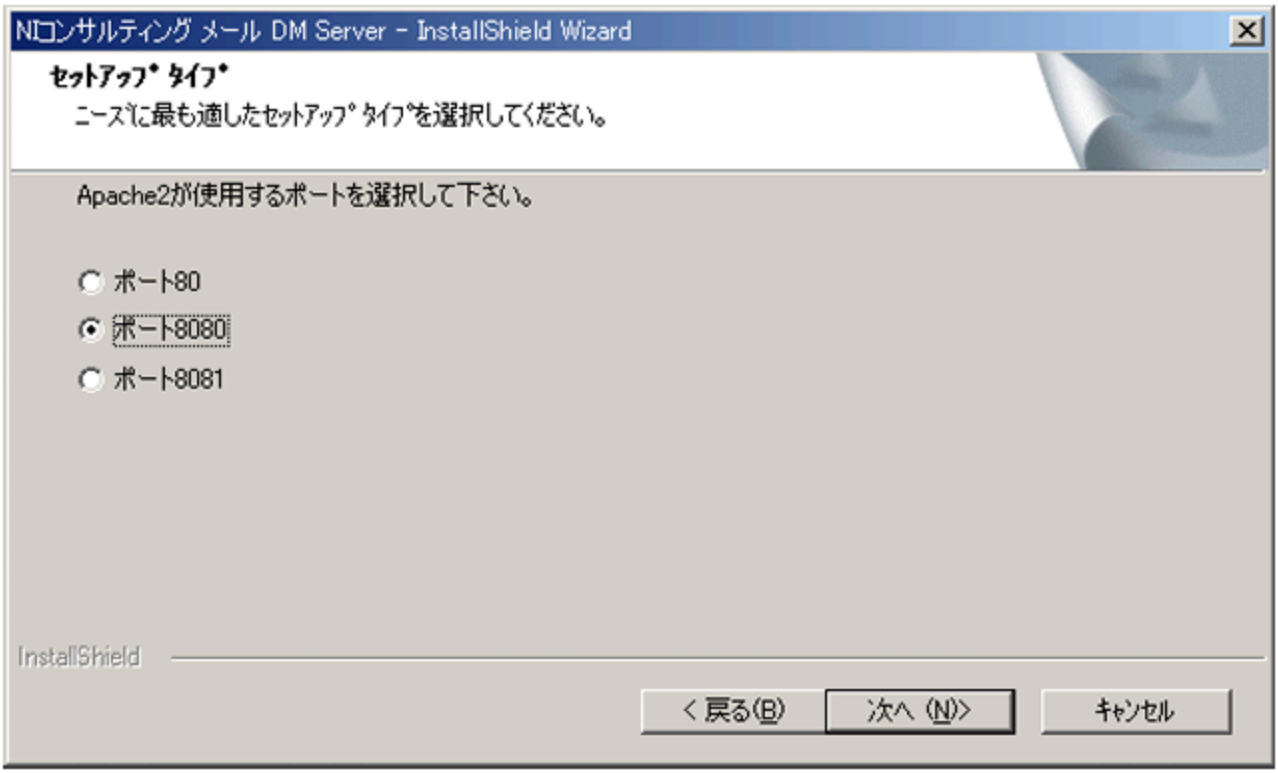
次に、WEBサーバーのインストール確認ダイアログが表示されます。Apache2.X系がインストール済みの場合は、

「いいえ」を押してください。
※IIS・Apache1.X系等のWEBサーバソフトが稼動している場合は、その関連項目も含めて必ず終了させてください。
※IIS等の停止方法は、「メールDMサーバーFAQ」にて記載しておりますので、ご参照ください。

Apache2.X系をインストールしても良い場合は「はい」を押してください。
（確認方法：コントロールパネル＞管理ツール＞サービスのIIS ADMIN SERVICE）



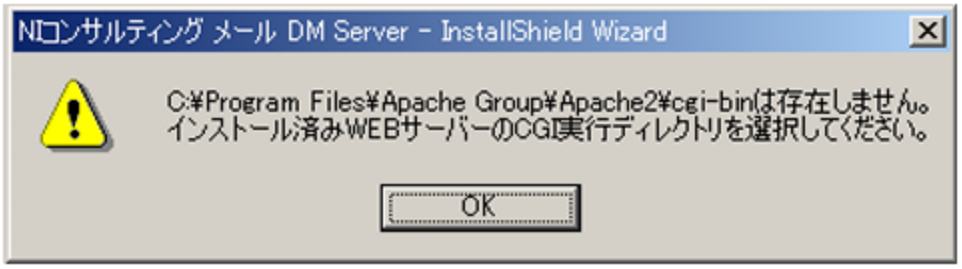
5. Apache2が使用するポートを選択
Apache2.X系が使用するポート番号を指定します。このとき、初期値としてポート番号【8080】が指定されていますので、その他ポート(80、8081) を選択する場合は、それを選択して「次へ」を押してください。



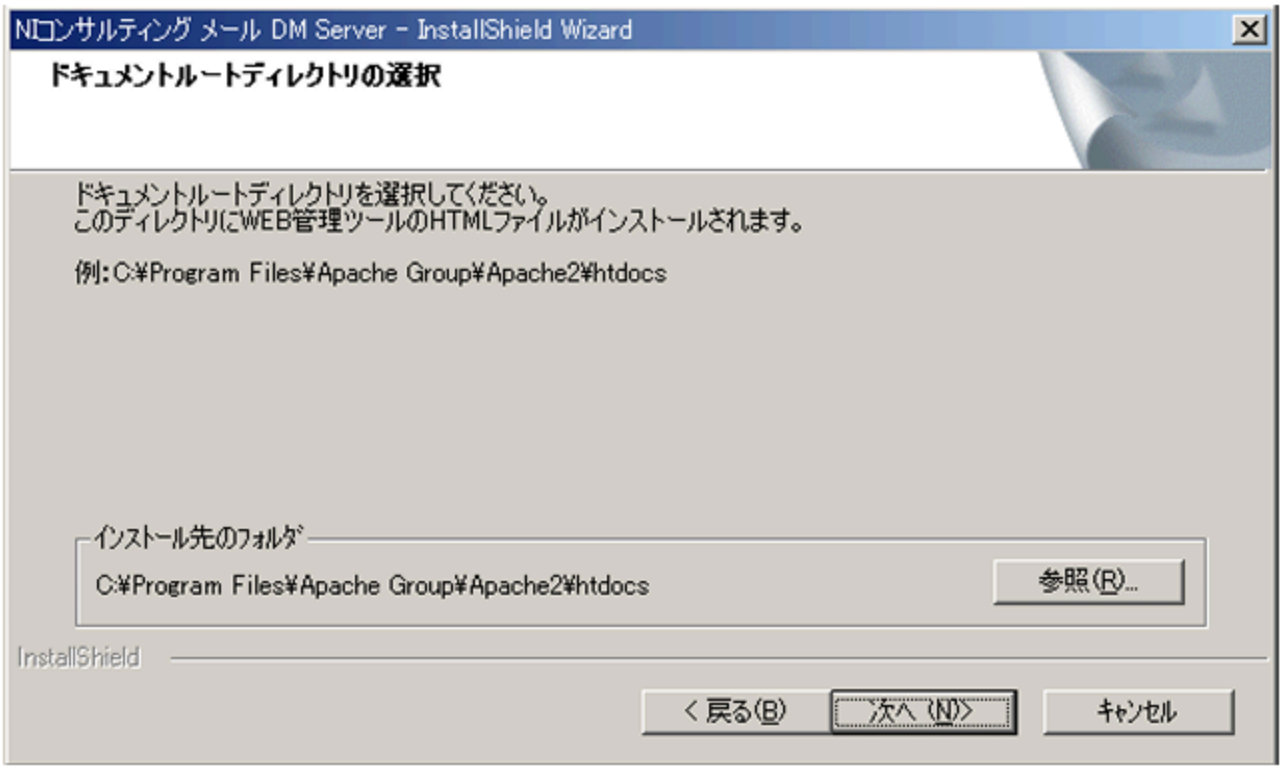
6. CGI実行ディレクトリの選択
   WEBサーバーインストール確認で「いいえ」がクリックされた場合に表示されます。インストール済みのApache2.X系のCGI実行権限のあるディレクトリを選択して、「次へ」を押してください。



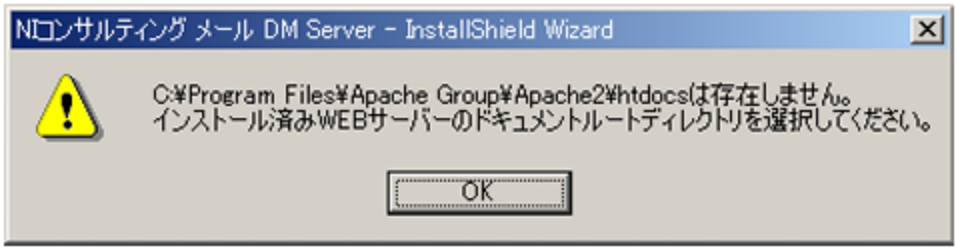
7. CGI実行ディレクトリ存在確認
   CGI実行ディレクトリが存在しない場合は、以下の確認ダイアログが表示されます。「OK」を押すとCGI実行ディレクトリの選択画面に戻るので、存在するディレクトリを指定してください。



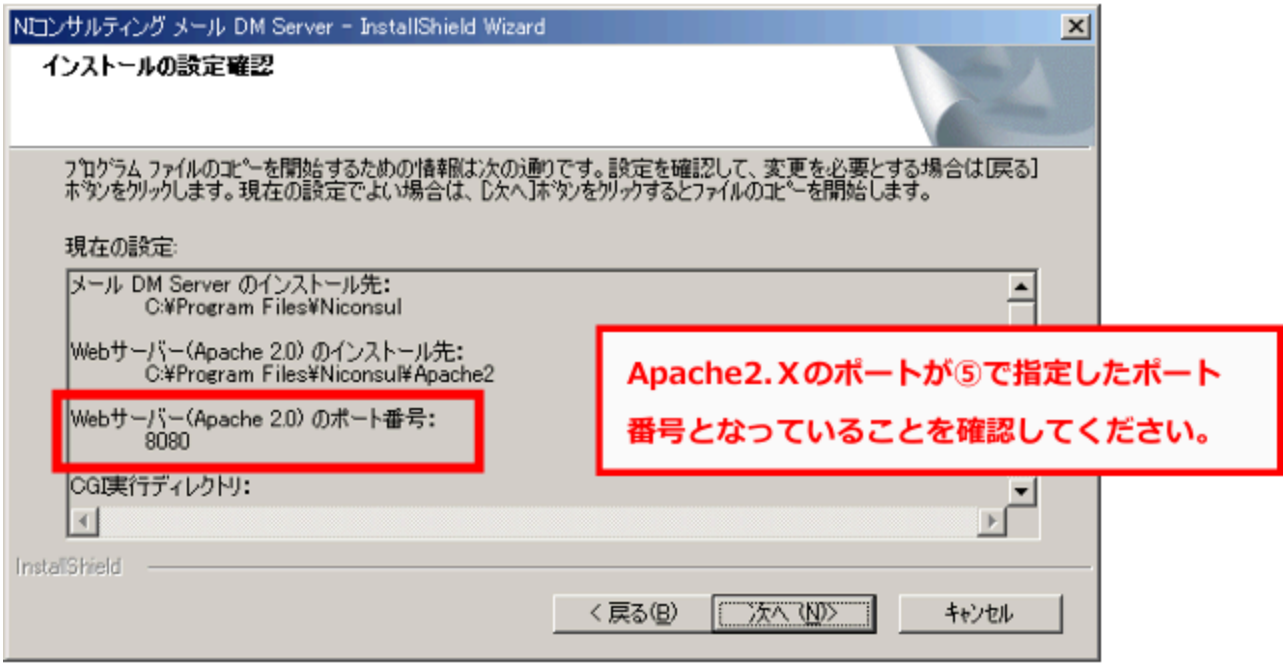
8. ドキュメントルートディレクトリの選択
   WEBサーバーインストール確認で「いいえ」が押された場合に表示されます。インストール済みのApache2.X系のドキュメントルートディレクトリを選択して、「次へ」を押してください。



9. ドキュメントルートディレクトリ存在確認
   ドキュメントルートディレクトリが存在しない場合は、以下の確認ダイアログが表示されます。「OK」をクリックするとドキュメントルートディレクトリの選択画面に戻るので、存在するディレクトリを指定してください。



10. 設定内容の確認
「ファイルコピーの開始」画面が表示されます。設定項目をご確認の上、「次へ」を選択してください。



11. 最後に、「インストール準備の完了」画面が表示されるので、「インストール」を押してください。インストールが開始されます。



12. インストールが完了しましたら、「Install Shield Wizardの完了」画面が表示されます。「完了」をクリックし、セットアップを終了してください。
⇒メールDM管理ツールが自動起動されます。

以上で、セットアップが完了です。引き続き、「インストール後の設定」をご参照ください。

▶ インストール開始（ダウンロードから実施）

製品のシステム設定画面よりファイルをダウンロードし、インストール完了までの手順を記載しております。記載内容をよくご確認の上、作業を実施してください。

> ⚠ 注意
>
> - WEBサーバーとしてApache2.Xを同時にインストールします、IIS等のWEBサーバー製品が既にインストールされている場合は、その関連項目も含めて必ず終了させてからインストールを始めてください。
> - インストールの実施は、必ずAdministratorの権限をもつユーザーで実行してください。クライアントOSの場合はAdministratorユーザーで実行してください。ただし、OSのバージョンによってはAdministratorユーザーが無効になっているため有効にする必要があります。詳細は各OSのマニュアルを参照ください。
> - Windowsのユーザーアクセス制御（UAC）が有効になっているとメールDMサーバーが正しく起動しないのでUACは無効にしてください。詳細は各OSのマニュアルを参照ください。

1. インターネットエクスプローラーを立ち上げます。
2. インターネットエクスプローラーのアドレス欄に「Approach DAM」のURLを入力し、指定したURLに移動します。

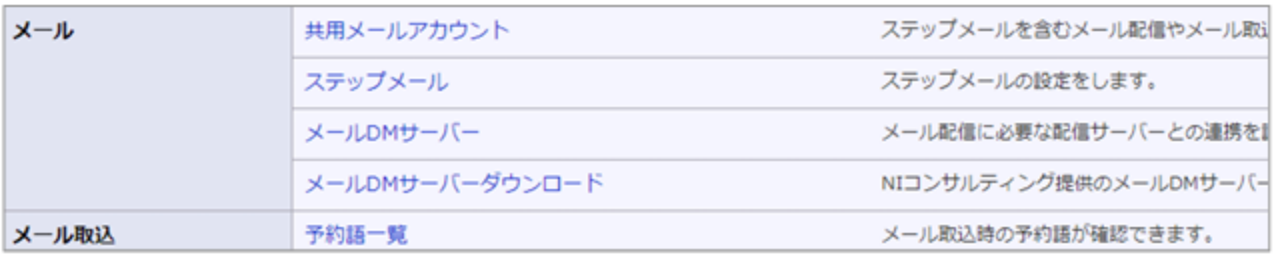
http://（サーバーに設定しているホスト名、またはIPアドレス）/ni/nisfa/main/

3. ログイン画面が表示されます。システム管理者用の「ログインID」「パスワード」を入力し、ログインボタンを押します。
4. トップ画面左下の「システム設定」を押し、システム設定画面を開きます。
5. ログイン用「パスワード」を入力し、「ログイン」ボタンを押します。

【ログイン画面】　　【トップ画面】



6. システム設定の製品名タブ（Approach DAM）より「**メール**」の「メールDMサーバーダウンロード」を選択します。

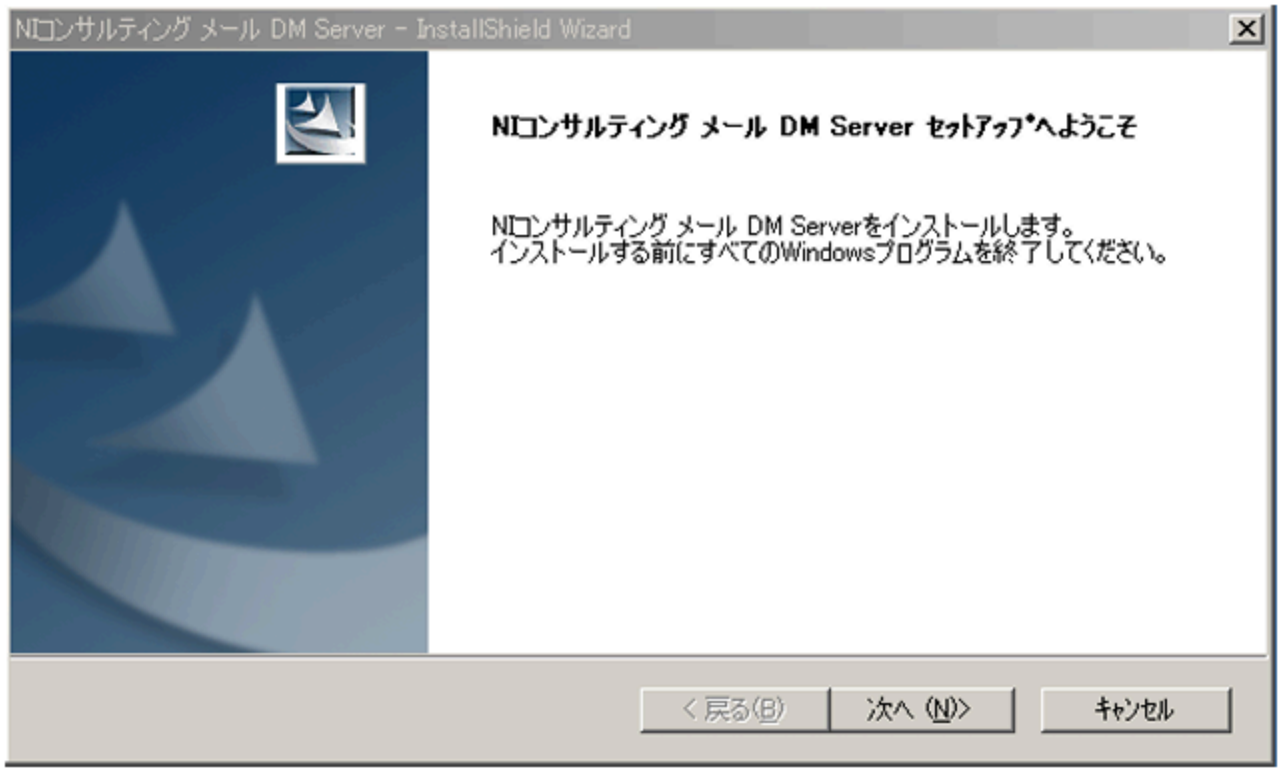


メール	共用メールアカウント	ステップメールを含むメール配信やメール取込
	ステップメール	ステップメールの設定をします。
	メールDMサーバー	メール配信に必要な配信サーバーとの連携を
	メールDMサーバーダウンロード	NIコンサルティング提供のメールDMサーバー
メール取込	予約語一覧	メール取込時の予約語が確認できます。

7. 「メールDMサーバーのダウンロード」画面が表示されますので、「ダウンロード」ボタンを押し、nidam.zipファイルをダウンロードします。



8. セットアップの実施
   ダウンロードしたファイルを解凍し、「MailDMServer-setup.exe」をダブルクリックして下さい。メールDMのセットアップが開始します。

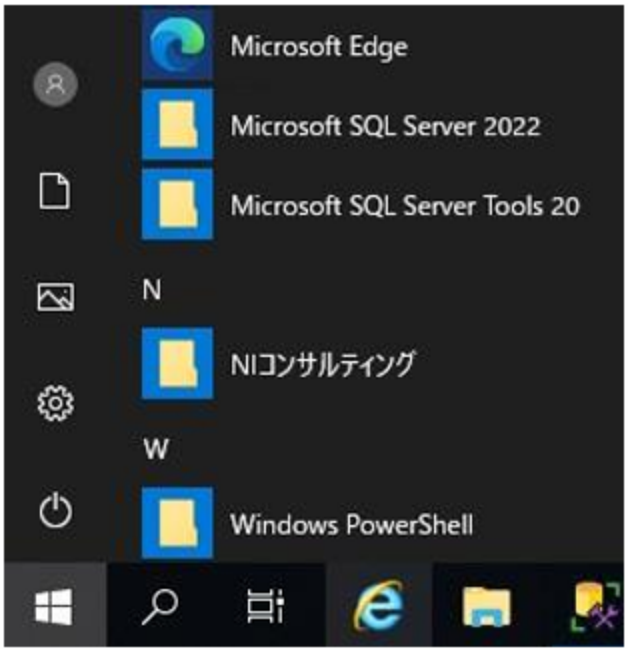


> ⚠ 注意
>
> - これ以降の手順につきましては、製品CD-ROMからのインストール方法と同様です。
> - 「インストール開始（メディアから実施）」の手順2.以降をご参照ください。

インストール後の設定

メールDMのインストールが完了しましたら、Approach DAMとの連携を有効にするために、管理ツールより連携設定をしていただく必要があります。以下の手順に従い、必要項目を設定してください。

1. メールDMサーバーの管理ツールを起動します。
    - ブラウザ（Microsoft Edgeなど）を起動します。



    - ブラウザのアドレス欄に以下のアドレスを入力すると、管理ツールが起動されます。
      http://127.0.0.1:8080/cgi-bin/tas/dm.exe/admin/index.php
      ※メールDMサーバーのインストール時にポート番号を変更した場合は上記の「8080」の箇所を変更したポートに変更します。



⚠ 注意

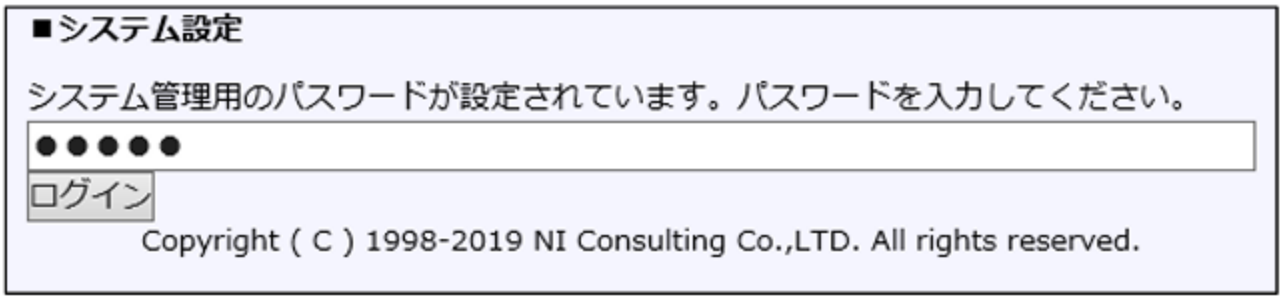
- メールDMインストール後に任意にApache2.Xのポート番号を変更された場合は、スタートメニューの「管理ツール」は作成しなおす必要があります。

例. メールDMインストール後にポート番号を【8888】に変更した場合

1. メールDMサーバーのスタートメニュー＞「NIコンサルティング」＞「メールDMサーバー」を右クリックから「開く」を選択し、スタートメニューが登録されているフォルダを開きます。
2. ブラウザで「http://127.0.0.1:8888/cgi-bin/tas/dm.exe/admin/index.php」を開いて、URL欄のブックマークを**1.で開いたフォルダ内にドラッグ＆ドロップする**ことでスタートメニューを登録します。
3. 古い「管理ツール」のショートカットは削除します。



2. メールDMサーバー 管理ツールでのログイン。
   ログイン用のパスワードを入力してログインします。ログインパスワードは、『**admin**』を入力してください。



3. 基本設定より連携設定を選択します。初期表示画面として、「連携設定」画面が表示されます。
   表示画面にある項目に必要情報をセットし、「保存する」ボタンを押してください。



「OAuth2.0」項目で「利用する」を選択した場合、以下の「受信サーバー設定」項目が表示されます。
※基本認証の利用できない、Google又はMicrosoft様のメールサービスの場合にご利用ください。



項目	説明
メールDM名	任意のメールDMサーバー名を入力してください。
連携用メールアドレス	Approach DAMサーバーと通信するためのメールアドレスを入力します。 ※使用するメールアドレスは、メールDMサーバーのみ使用する専用のアドレスをご用意ください。
受信（POP3）サーバー設定 （OAuth2.0を利用しない）	上記「連携用メールアドレス」の受信メールサーバー情報を入力します。 ※「ユーザー名」は、「アカウント名」と記載されている場合もあります。 暗号化通信が必要な場合は、STARTTLSかSSL/TLSを選択してください。 IMAPしか対応していない場合は、プロトコルでIMAPを選択してください。 ※POP3/IMAPともに、受信メールを削除するかは受信メールの設定に従います。
受信サーバー設定（OAuth2.0を利用する）	メールサーバーを選択肢から選択してください。 システム設定マニュアル「セキュリティ」の、メールサーバー設定にある、 OAuth2.0を利用した設定方法を参考に、認証パラメータ情報を設定してください。 ※Web製品と同じAPIを利用する場合、設定をコピーしてください。 OAuth2.0認証の認証情報取得ボタンを押下し、認証を進めて、取得した認証コードをテキストボックスに転記してください。 ※ログインIDは、メールアドレスとログインIDが異なる場合のみ入力が必要です。
受信メール	メールサーバーから受信済みのメールを削除しない場合は、「受信メールのコピーをメールサーバーに残す」にチェックを付けてください。
TLSバージョン	STARTTLS又はSSL/TLSで暗号化通信を行う場合に、バージョンを指定する必要がある場合は、TLSのバージョンを選択してください。 ※通常は「指定しない」のままで問題ありません。
Approach DAMの接続URL	製品のURLを入力します。 **※～dm.phpまで正確に入力してください。** （例）http://IPアドレスまたはドメイン名/ni/zcom/module/dm.php
プロキシ設定 基本Basic認証設定	ご利用の環境に応じて設定してください。
連携キー	自動生成のため、入力は不要。

⚠ 注意

- **メールDMサーバー設定時に、『エラー：接続URL』というメッセージが表示された場合、以下のどちらかに問題があると考えられますので、ご確認ください。**

- 接続URLが正しく登録されているか、ご確認ください。
- プロキシ設定が必要であるか、システム管理者にご確認ください。

4. 次に、Approach DAMにログインし、トップ画面左下の「システム設定」をクリックします。
   パスワードを入力し、ログインします。初期パスワードは『**admin**』

【ログイン画面】 【トップ画面】



5. システム設定画面から製品名タブ（Approach DAM）内の「メール」＞「メールDMサーバー」を選択してください。
6. 3.の設定が正常に行われている場合、当画面に連携状態が「許可待ち」の状態で、メールDMが認識されます。画面に出てこない場合は、3.の設定内容を確認してください。
   「許可」ボタンを押していただくことによって、メールDMの設定が完了となります。
   ※複数のメールサーバーを利用する場合には、登録された数だけ画面上に表示されます。



7. 「許可する」ボタンを押すと、以下の画面がポップアップされますので、「OK」を押します。



8. 許可されると画面上では「連携中」の状態へと変わり、メールDMサーバーとの連携が完了となります。
これにより、メールDMサーバーとApproach DAMの連携が完了です。



⚠ 注意

- メールDMサーバーを利用するには、メールDMサーバーの稼働サーバーがWindowsログオン状態である必要があります。利用中はログオフにしないようにご注意ください。
- セキュリティの観点から、ロック状態にすることを推奨いたします
- メールDMサーバーがNIVMSサーバーと連携するとNIVMSサーバーの一部のマスターデータと顧客情報・パーソン情報のE-Mail情報の複製データの同期（1分毎に2000件前後）が定期的に行われるようになります。
- パーソン情報が既に登録されているような場合、初回時は、同期が完了するまで時間を要する場合（パーソン10万件で1時間程度）があります。

メールDMサーバーのアンインストール

本章では、メールDMが運用上不要になり、メールDMサーバーをアンインストールする場合の手順について説明します。

> ⚠ 注意
>
> - Approach DAMの前身である「顧客創造Approach」をご利用されていたお客様で、同じ環境にApproach DAM用にメールDMサーバーを構築する場合、旧メールDMサーバーがインストールされていると正常にインストールできません。インストールの前に、旧メールDMサーバーを本章の手順にしたがってアンインストールする必要があります。

Windows OSのバージョンによってはUIや説明が若干異なる可能性があります。ここではWindows Server 2019での例を説明します。

1. メールDMサーバープログラムを停止します（停止方法の詳細は後述の章を参照ください）。
2. スタート>コントロールパネル>プログラムと機能をクリック
3. 「NIコンサルティング メール DM Server」を選択して「アンインストールと変更」を選択し、ウィザードを表示し、「削除」を選択します。指示に従って削除します。



4. 同様の手順で「Apache HTTP Server」もアンインストールします。
5. プログラムのアンインストールが完了したら、以下のフォルダをそのまま手動で削除しアンインストールを完了します。これらはアンインストール操作では削除されないため削除しないとそのまま残り続けます。

   メールDMサーバーをインストールしたフォルダ（以下はデフォルト時のパス）
   C:¥Program Files（x86）¥Niconsul

万が一、アンインストールの作業中にサーバーを再起動する旨のダイアログが表示された場合は、そのま再起動して作業を継続してください。再起動しないと適切にファイルが削除されないなどアンインストールが不完全になる可能性があります。

メールDMサーバーFAQ

▶ Q1．IIS等の停止方法がわからない

A.IIS の停止方法については、以下の方法を確認してください。

1. Windowsの「スタート」＞「コントロールパネル」＞「管理ツール」＞「サービス」と進みます。
2. 開いた画面上で、以下の4つの項目を探します。
    - IIS Admin Server
    - FTP Publishing Service
    - Simple Mail Transport Protocol
    - World Wide Web Publishing Service
3. 上記4つの項目において、右クリック → プロパティにてそれぞれ「状態」を【停止】、「スタートアップの種類」を【手動】にして「OK」を押します。

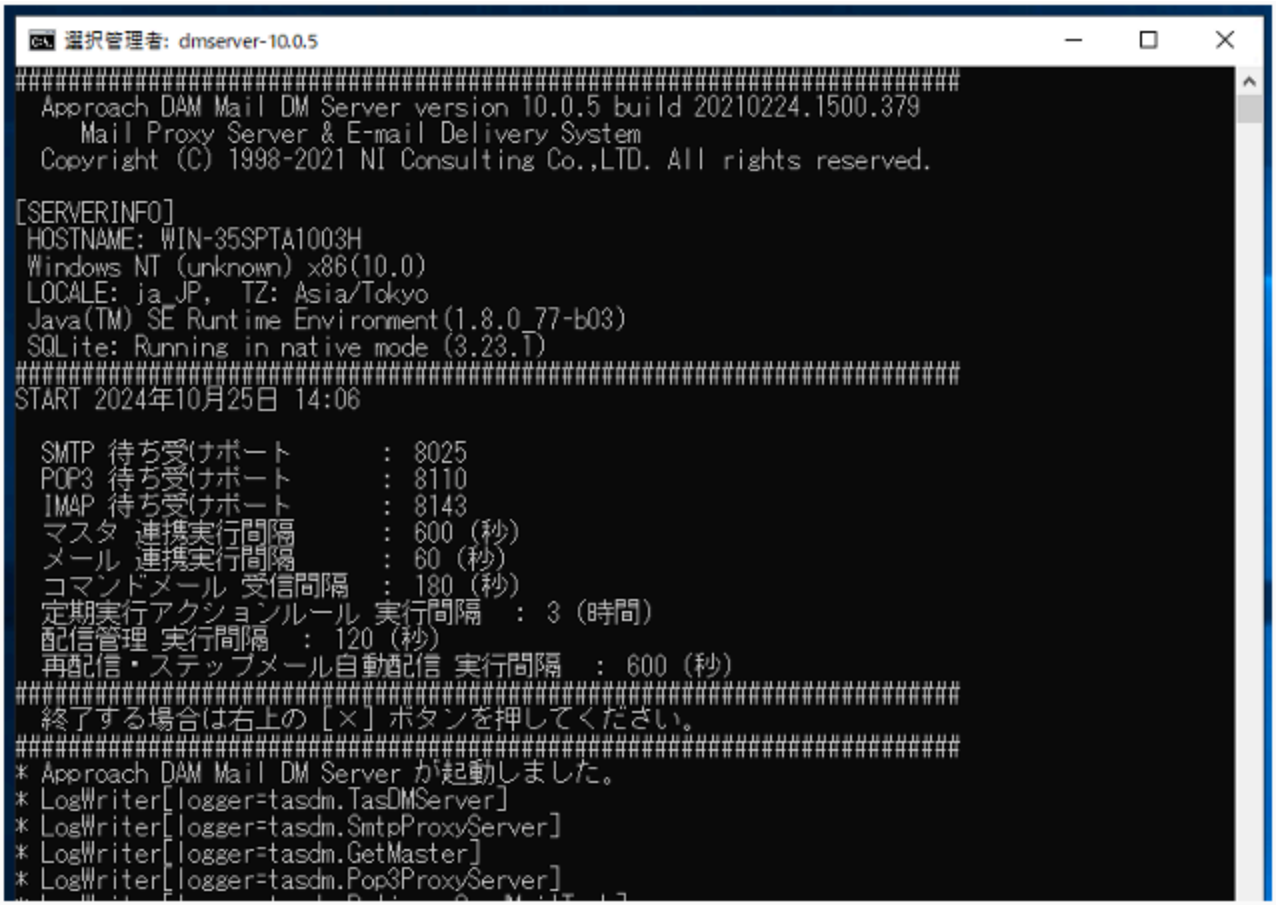
すべての項目において実施できたら完了です。

▶ Q2. メールDMサーバーの起動方法/停止方法

A.メールDMサーバーは手動で起動/停止が可能です。以下の方法を確認してください。

【起動方法】

1. Windowsの「スタート」＞「NIコンサルティング」＞「メールDMサーバー」＞「メールDMサーバー」と進みます。
   ⇒メールDMサーバーが起動します。



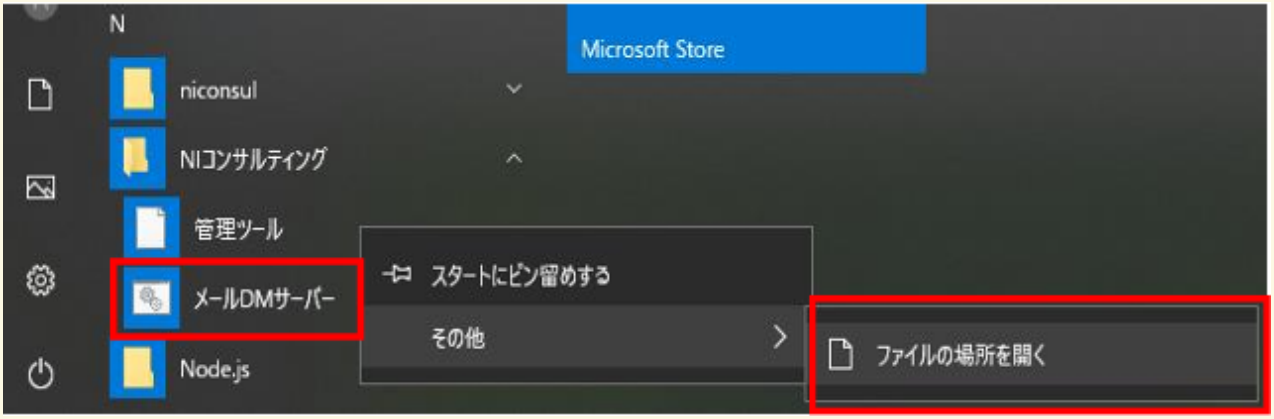
⚠ 注意

- メールDMサーバー画面を起動時、画面がすぐに閉じてしまう場合、Windowsのユーザーアクセス制御（UAC）による影響の場合があります。

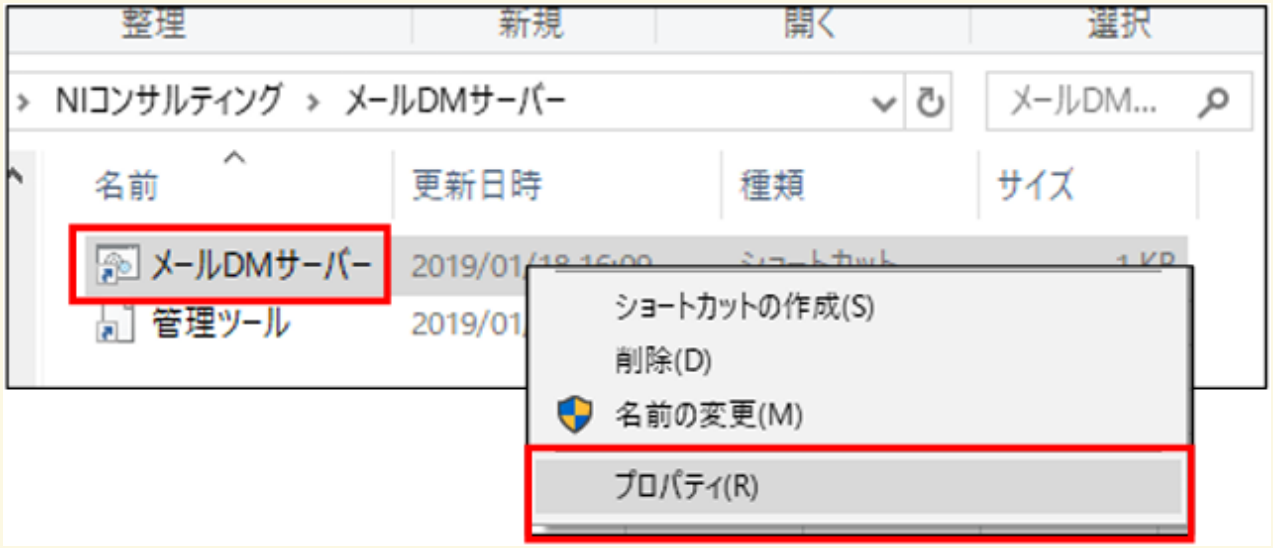
  初回起動時のみ、以下の設定をすることで、回避をすることが可能です。

  Windows OSのバージョンによってはUIや説明が若干異なる可能性があります。
  ここではWindows Server 2019での例を説明します。

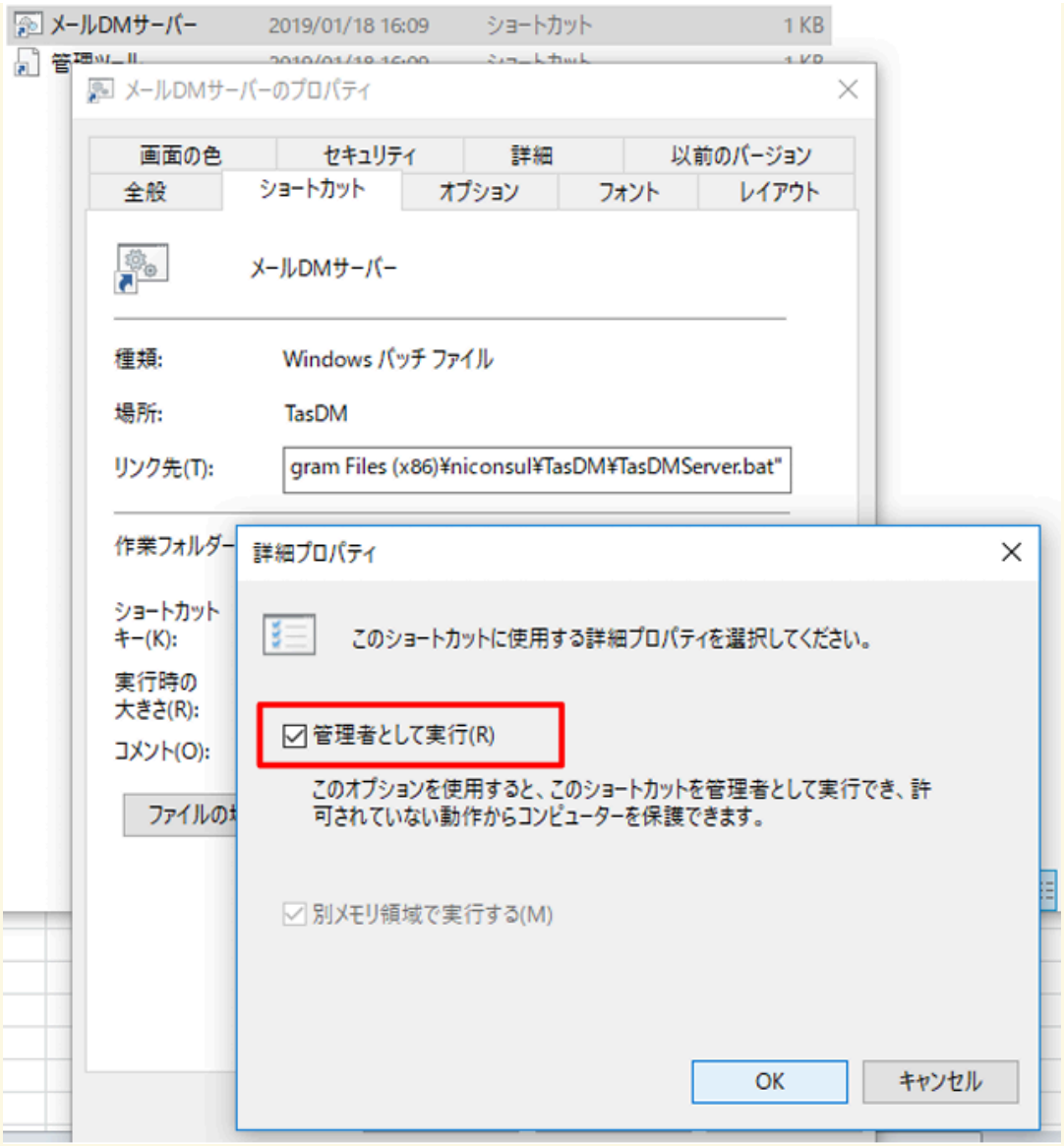
  1. スタートメニューからファイルの場所を開きます。



  2. ショートカットの画面を開き、「メールDMサーバー」を右クリックし、プロパティを開きます。

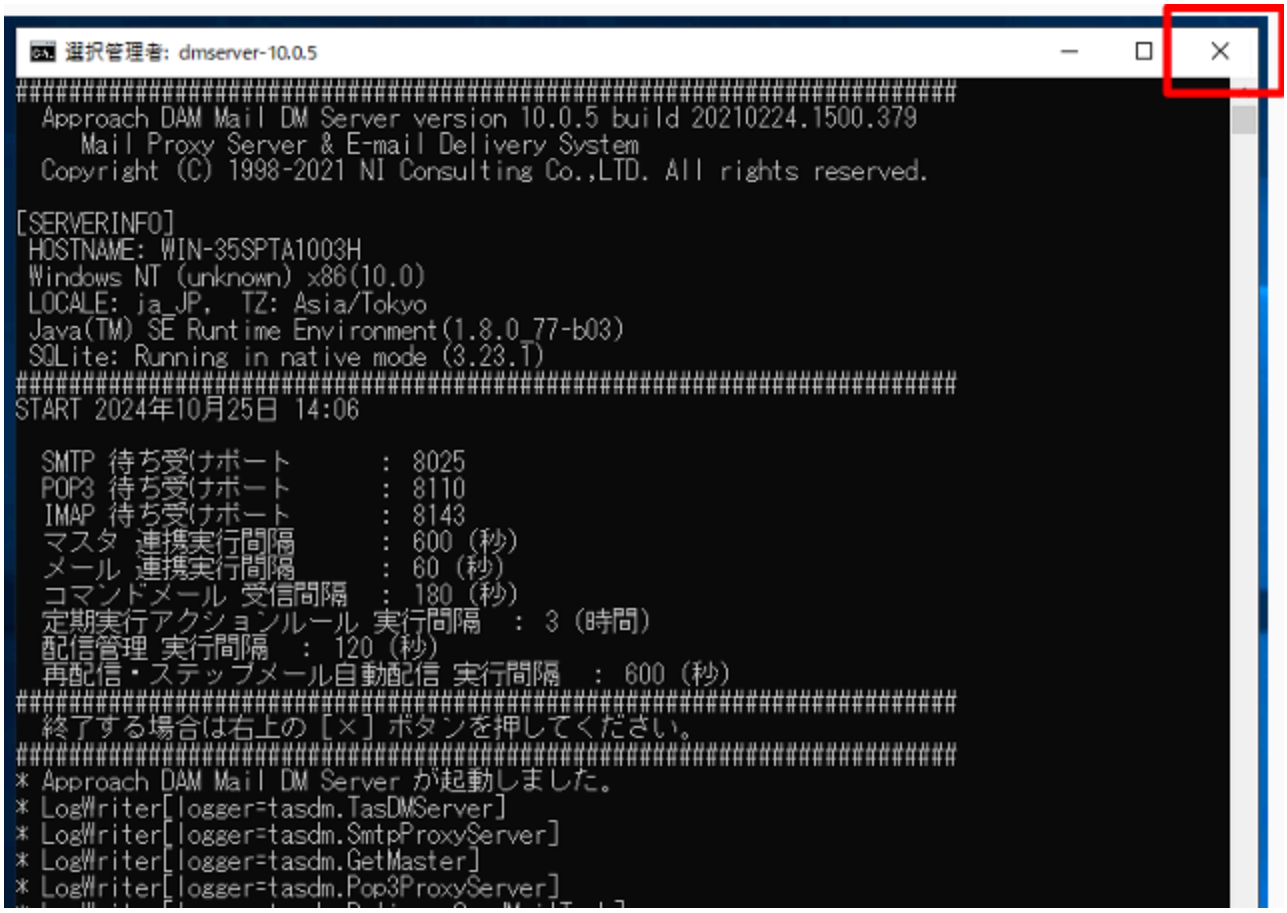


  3. 「メールDMサーバーのプロパティ」の画面で、ショートカットのタブで「詳細設定」ボタンをクリックすると、管理者として実行する設定が可能です。
     「管理者として実行」のチェックボックスをオンにして、「OK」ボタンをクリックして保存をします。


メールDMサーバー 2019/01/18 16:09 ショートカット 1 KB
メールDMサーバーのプロパティ
画面の色
セキュリティ
詳細
以前のバージョン
全般
ショートカット
オプション
フォント
レイアウト
メールDMサーバー
種類: Windows バッチ ファイル
場所: TasDM
リンク先(T): gram Files (x86)¥niconsul¥TasDM¥TasDMServer.bat"
作業フォルダー
ショートカット キー(K):
実行時の 大きさ(R):
コメント(O):
詳細プロパティ
このショートカットに使用する詳細プロパティを選択してください。
管理者として実行(R)
このオプションを使用すると、このショートカットを管理者として実行でき、許可されていない動作からコンピューターを保護できます。
別メモリ領域で実行する(M)
OK
キャンセル

【停止方法】

メールDMサーバーの画面の右上の「X」をクリックして閉じると、停止します。



▶ Q3. データベースのサイズが大きいとき

A.データメンテナンス機能を利用することで、データベースのサイズを圧縮することができます。
以下の方法を確認してください。

1. Windowsの「スタート」＞「NIコンサルティング」＞「メールDMサーバー」＞「管理ツール」を選択します。
   ⇒メールDMサーバーが起動します。
2. メールDM管理のメニューリストから、メンテナンス＞データメンテナンスを選択します。
   ⇒データメンテナンス画面が表示されます。
3. 「データベースの最適化する」ボタンをクリックしてください。



4. 実行結果が「C:¥Program Files (x86)¥niconsul¥TasDM¥log¥Datamaint.log」に記録されます。

▶ Q4．メールサーバーのSSL/TLS接続に必要なルート証明書の設定方法について

Ａ.メールDMサーバーからメールサーバーに、SSL/TLS接続でメールを受信および配信する際に、メールサーバーのアドレス、ポート番号、ログインID、パスワードを正しく指定しても、以下に該当する場合、接続できないことがあります。

- メールサーバーの証明書が、第三者認証局が発行するサーバー証明書ではない場合。
- メールサーバーの証明書が、サーバー証明書を無料で発行する認証局が発行した場合。

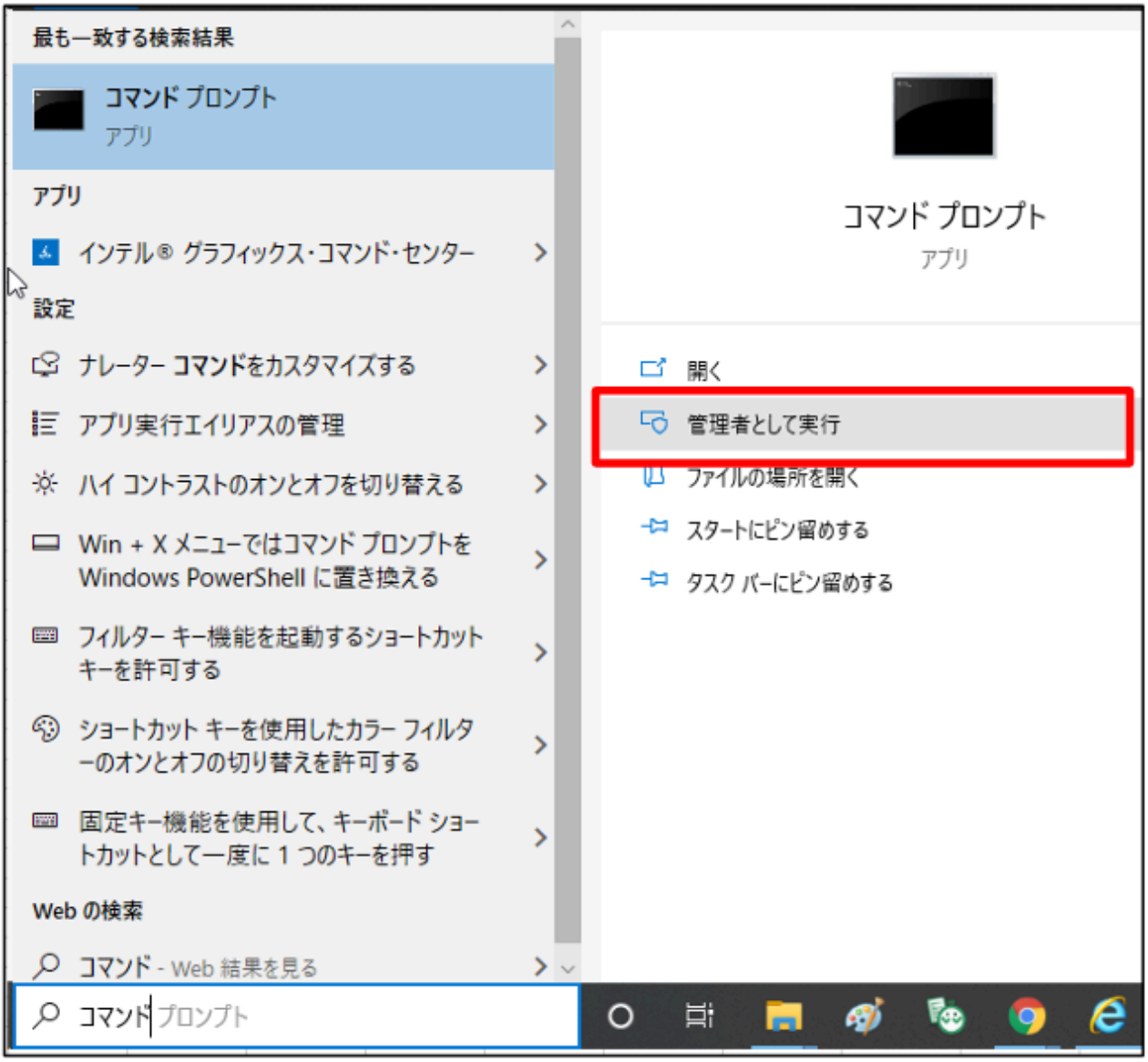
（エラー内容）
受信(POP3)サーバーの接続に失敗しました。Connect failed
配信エラー～unable to find valid certification path to requested target

回避方法は以下の2つがあります。

1. SSL/TLS接続を利用しない。
2. メールサーバーのSSL/TLS接続に必要なルート証明書を設定する。

【設定手順】

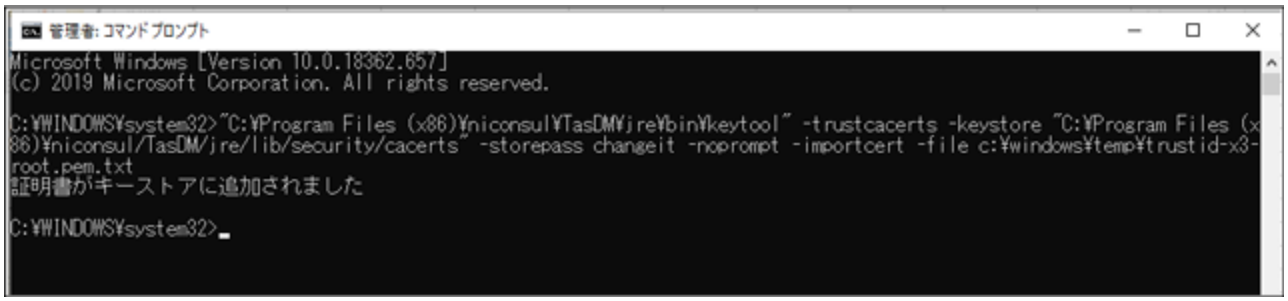
1. メールサーバーの接続に必要なサーバー証明書または認証局が発行するルート証明書を準備します。
2. コマンドプロンプトを「管理者として実行」を指定して開きます。



3. コマンドプロンプトを「管理者として実行」を指定して開きます。
   「証明書がキーストアに追加されました」と表示されると設定完了です。

```
"C:¥Program Files (x86)¥niconsul¥TasDM¥jre¥bin¥keytool" -trustcacerts -keystore "C:¥Program Files (x86)¥niconsul/TasDM/jre/lib/security/cacerts" -storepass changeit -noprompt -importcert -file 証明書ファイルのフルパス
```

（実行例）証明書ファイルを「c:¥windows¥temp¥trustid-x3-root.pem.txt」に準備した場合



4. メールDMサーバーを起動します。
